

藤蘭<sup>三下り</sup>前<sup>三下り</sup> へわしが在所は風雅に出でて むくつけに寝まるべいと  
 語ろうならば 嬉し甘露の桃や柿がぶらさがり 合九十九匹の意地  
 悪猿に おっ立てられても笑われても 根こんず惚れたが性根じゃ  
 え 黒木買わんせ黒木召せ 合へ恋には八瀬の里育ち 軒の簾の床  
 しさは 合玉だれ髪を取り上げて 誰に見しよとて夕化粧 合へ  
 わしが器量はほめもせで 姿がよいの生え際が 宵の口説に無理な  
 ひざりごと 合へわしほど優れた女子をば 嫌うお前の気が知れぬ気  
 が知れぬ へエ、女子冥利が尽きようぞえ へ機嫌直して君と我  
 とともに落ちよもの我が里を 合へ兎角思うようになア 浮世がなら  
 ば 合可愛い合殿御と野の末までも 糸も練ります機織虫よ 合  
 へ誰を松虫焦がれてすだく つづれさせちよう馬追い虫の 永き夜  
 すがを泣き明かす へ誰を松虫焦がれてすだく つづれさせちよう  
 馬追い虫の 永き夜すがを泣き明かす へ草葉にすだく鈴虫のふる  
 やふる野の

三重<sup>三上り</sup>三下り<sup>三上り</sup>へ振りやれお振りやれ 剽軽男の 又とないない一代奴  
 合 ありやんりやりや 合 こりやんりやりや 何でもせ 合へ国で  
 評判男山 合へお国境の松の木の下がり枝 危ない危ない 合お腰  
 をかがめて お腰をかがめて 合振りやれ振りやれ 合その月雪の  
 花の槍 見事にさ 合開いてさ 合見事に開いた振りもよし 聞か  
 ば靡かん松の木越よ 振れさ 合振れさ 合振れ振れ振れ お先揃え  
 て殿はしよち入り 合<sup>三上り</sup>事<sup>三下り</sup>へだめな事ばし言わしやるな 合明日は関  
 東さえ まかるべいぢやな やれさてナ 主さ別れぢやなア 伊勢路へ  
 合あんちうちくだぶん抜きやるさア 池のどん亀なら むんぐるべい  
 とは やれさて 実だんべい 実だんべい 合いけすか女郎衆の旅  
 立ちさ 主さ別れぢやなア 伊勢路へ 合あんちうちくだぶん抜きや  
 るさア 池のどん亀なら むんぐるべいとは やれさて 実だんべい  
 実だんべい 合へ掛け奉る宝前に 名筆名画の徳は目前 今日の前  
 に 外に中村人のやまやま